



# 牛ウイルス性下痢・粘膜炎 (BVD-MD) について

- 牛ウイルス性下痢・粘膜炎 (BVD-MD) は、発熱、呼吸器症状及び下痢等を起こす疾患です。
- 牛が最も感染しやすいのは、牛の排泄物、汚染された飼料、他の牛、人、動物、昆虫、媒介動物等によるものです。
- 牛の感染経路は、鼻汁、糞便並びに尿等によるものです。
- BVD-MD は、牛の免疫系を弱くし、他のウイルス感染を促進させ、持続感染の原因となります。

## 【感染経路】

牛は感染を防御しますが、抗体未保有の牛が、感染牛の唾液、鼻汁、糞便並びに尿等を吸い取り、感染を起こすことがあります。また、抗体未保有の牛が、感染牛の胎児日齢により被害を被ります。

## 【症状】

- ① 抗体未保有牛は感染を防御します。下痢を起こし、抗体を産生し健康牛として回復します。
- ② 抗体未保有牛は感染を防御しますが、抗体未保有の牛が、感染牛の唾液、鼻汁、糞便並びに尿等を吸い取り、感染を起こすことがあります。

## 胎児

- ① 0～60日齢 死産・流産
- ② 60日齢～100日齢前 死産・流産
- ③ 100日齢～150日齢 異常産
- ④ 150日齢以降 異常産
- ⑤ 150日齢以降 異常産

PI牛とは、抗体未保有母牛が胎齢100日齢前後で感染するものは、持続感染母牛から生まれた子牛で、外見上健康牛と区別がつかない場合があります。胎児自身に感染を起こし、抗体を産生し健康牛として回復しますが、抗体未保有の牛が、感染牛の胎児日齢により被害を被ります。

## 【予防】

本病に対する治療法は、農場への感染牛の導入を防ぐとともに、定期的に検査を実施し、PI牛の早期発見・淘汰を行います。感染牛の増加を防ぐ必要があり、最近では他の疾病を同時に予防する3～6種の混合ワクチンが利用されています。(県立八ヶ岳牧場に入牧する牛はワクチンの2回接種が義務づけられています。)